

©新造エージェンシー・サンライズ

MG
MASTER GRADE



MG ZETA GUNDAM
PRINCIPALITY OF ZEON
MOBILE SUIT



BANDAI 2000 MADE IN JAPAN

パッケージの写真・イラストと商品とは、多少異なりますのでご了承ください。



MOBILE SUIT
MS-07B

GOUF

PRINCIPALITY OF ZEON MASS PRODUCTIVE
LAND BATTLE TYPE MOBILE SUIT

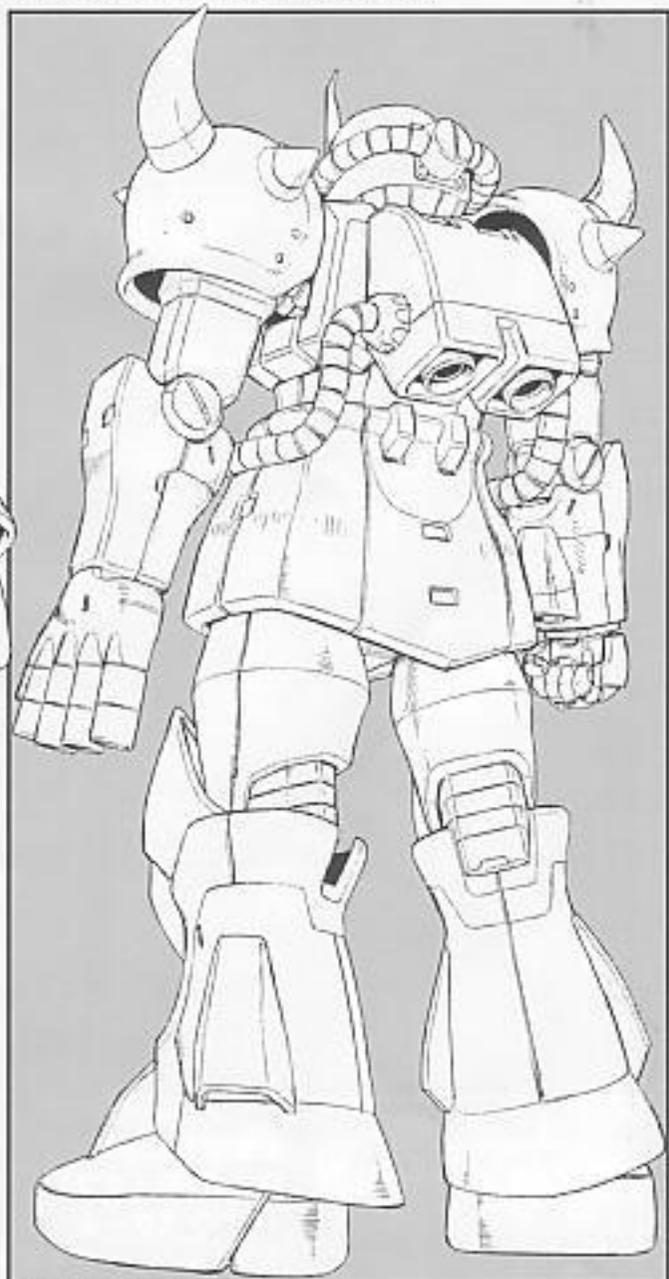


ジオン公国軍陸戦用
量産型モビルスーツ
MS-07B「グフ」
1/100 スケール
マスターグレードモデル

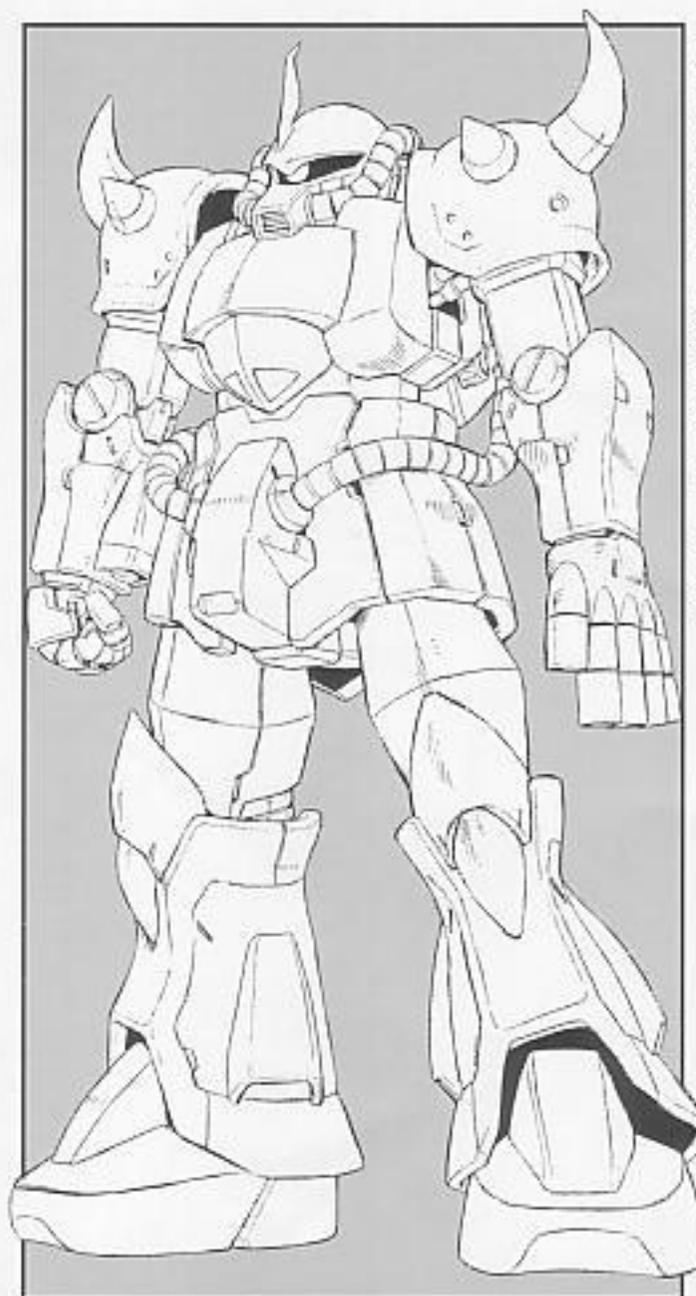
地上における移動力向上のため、開発当初からドグライズとの連携がオプションとして想定されていたため、連携用の通信機能強化端末としてブレードアンテナが標準装備となっているほか、いわゆる“飛行試験タイプ”のバリエーションも多い。それらの開発に当たっては、MSの生産技術が浸透したこともあって、本格的に“開発”に参加した複数の企業による競争原理が働いたことも大きく作用している。同時期にMS-08系となる機体も製作されていたのだ。その後、陸戦用MSの開発計画は統合され、バックバックなどの基本設計には08系の物が採用されている。脚部の動力伝達機構もこの頃に内装されるようになったと言われている。

グフ系MSの内、Bタイプに分類される機体は、軽量化によって内部容積に余裕が生まれたため、試作3号機以降は開発段階で設計されていた固定武装を内装し、戦闘力を大幅に向上させた機体となっている。さらに脚部に装備された補助推進システムによって、機動時の初期加速向上や足踏離れのジャンプを可能としており、量産型はそのタイプを原型としている。ただし、そのせいで汎用性の低下があったことは否めず、07B系の機体でも武装や武装などに若干のバリエーションが確認できる。量産は主にグラナダやキャリフォルニアベースでJ型の生産ラインを更新して行われた。

MS-07“グフ”は、単機での戦闘能力と移動力の異なる向上を目指していた。それはあたかも、MSが地球に対応していく過程を体現しているかのようであった。そしてそれは、数多くの“エース”が続々と地球上に降り、大地を常襲してゆく姿そのものでもあったのである。



Conceptual illustration: Hajime Kawada

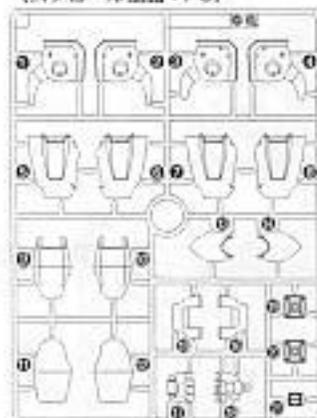
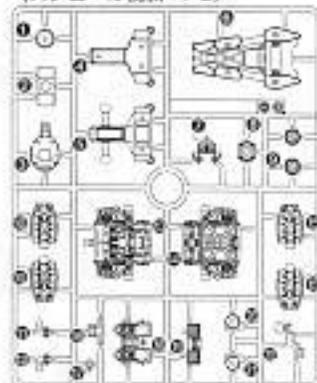
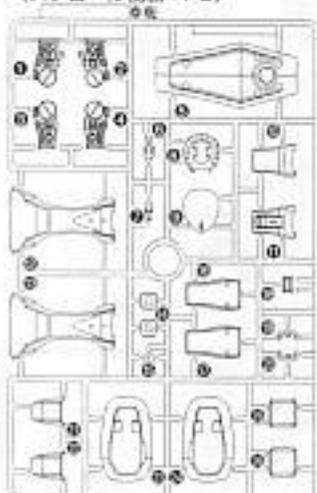
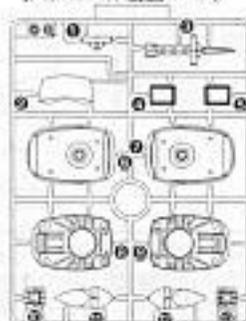
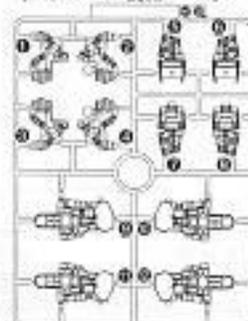
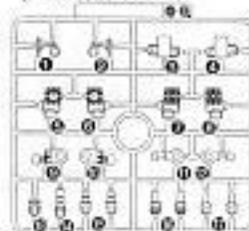
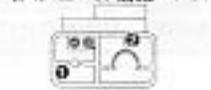
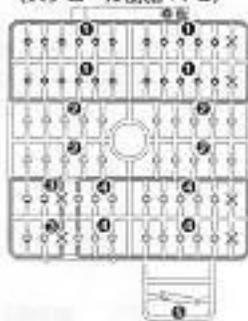
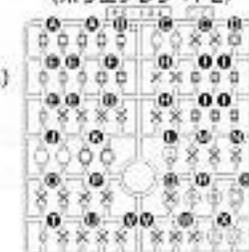


MS-07B GOUF

MS-07シリーズ、いわゆる“グフ系”の機体は、06Jタイプに次ぐ陸戦用MSとして開発された。重力下で存分に機能する機動性と、来たるべき対MS戦に備える格闘性能の向上を目的として、装甲を強化、冷却システムが大容量化され、脚部には空間戦闘用のものとは異なる仕様の補助推進システムが搭載された。試作機にはYMS-07のナンバーが与えられ、試験終了後、若干の設計変更を受けて量産化されている。06F及び06Jの重力下での実戦投入から07、08系の機体開発に至る期間は非常に短いものであったが、公国軍の技術者は決して場当たり的に陸戦用MSを開発したわけではなかった。

いわゆる陸戦に特化されたMSの基本的な着想そのものは、U.C.0076年12月の局地戦用MSの開発が着手された頃にあるが、その必要性が上層部に理解されるまで、数か月に及ぶ06Jの実働データの解析を待つ必要があったことも否定できない。しかし、それまでに蓄積された多くのシミュレーションがあれば、生産ラインの転換も含む地上までの迅速な適応拡散はなかっただろう。07系の機体は、本格的には06J型の実働投入で得たデータをもとに、設計段階から機体の軽量化を徹底し、同時に装甲を強化した機体であると捉活できるが、同時に“地球環境”に徹底的に対応するためのテストヘッドでもあった。

パーツリスト

Aパーツ
(スチロール樹脂: PS)Bパーツ
(スチロール樹脂: PS)Dパーツ
(スチロール樹脂: PS)Eパーツ
(スチロール樹脂: PS)Cパーツ
(スチロール樹脂: PS)Fパーツ
(スチロール樹脂: PS)Gパーツ
(スチロール樹脂: PS)Hパーツ
(ABS樹脂: ABS)Iパーツ
(スチロール樹脂: PS)Jパーツ
(スチロール樹脂: PS)Kパーツ
(スチロール樹脂: PS)Lパーツ
(スチロール樹脂: PS)X2Iパーツ
(スチロール樹脂: PS)PC-122
(ポリエチレン: PE)

メッシュパイプ……1本
リード線………1本
マーキングシール…1枚
ガンダムデカール…1枚
ビス……………9個+1個

《お買い上げのお客様へ》

部品をこわしたり、なくした時は「部品注文カード」に必要な部品の記号/番号/数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で足額小為替をお買い求めいただき、封書（裏面に必ず、お客様のお名前、年齢、ご住所を明記してください。）にて下記までお申し込みください。代金は、部品代（1個40円×個数）+郵送料（120円）です。お替紙は用紙入（白紙）で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じることがあります。部品発送の際に120円を超える時は不足分を請求、120円以下の時には残額をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。（X2Iパーツは300円です。）

■申し込み先 (株)バンダイ静岡相談センター
〒424-8735 静岡県清水市西久保305 TEL0543-65-5315

For Japanese use only.

部品注文カード 77633-2800
1/100SCALE MGシリーズ
MS-07B グフ

必要な部品の記号・番号・数量をかく

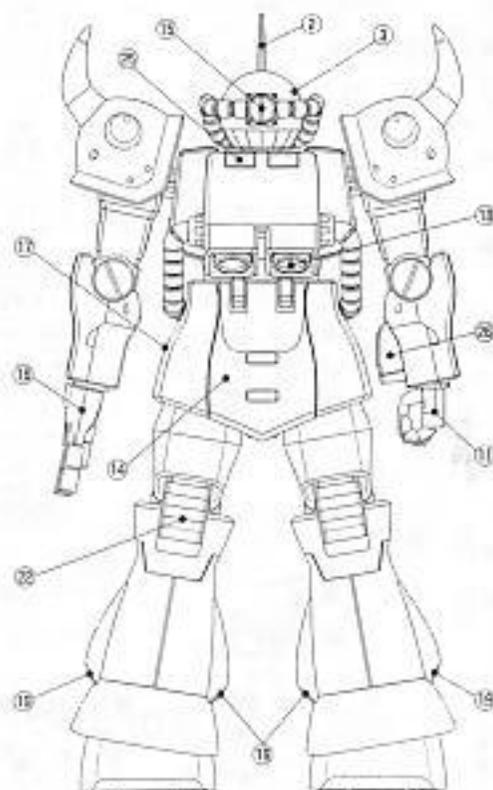
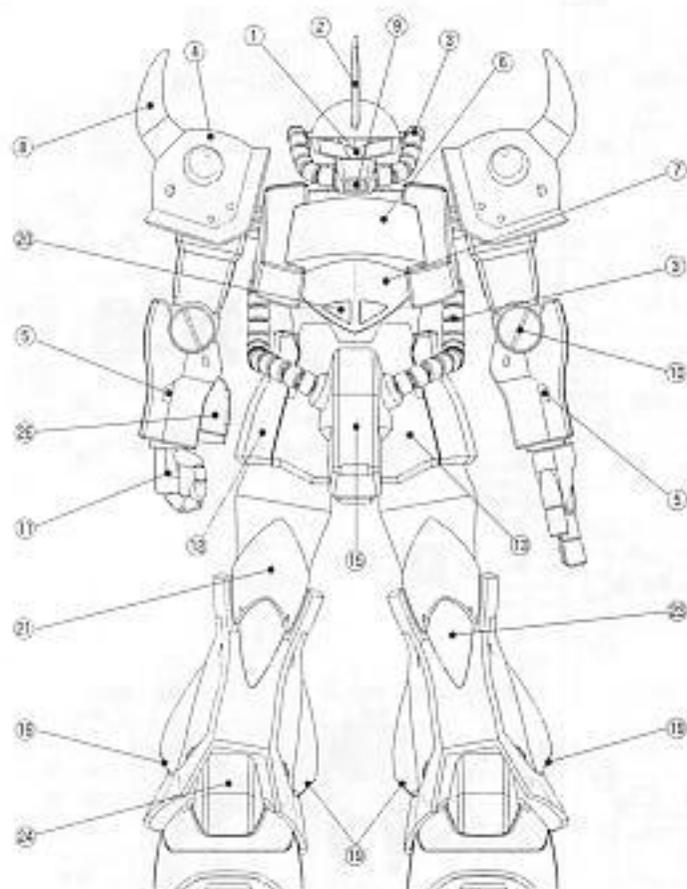
●注文された理由(○で囲む) (こわした/なくした)

部品の注文は「定額小為替」でお願いたします。

2000.10/T・ON

00.10

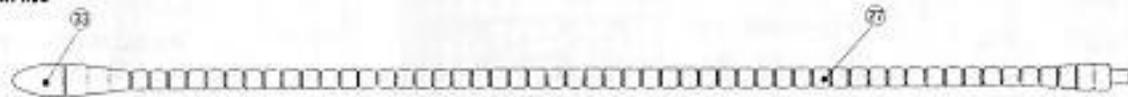
MS-07B GOUF



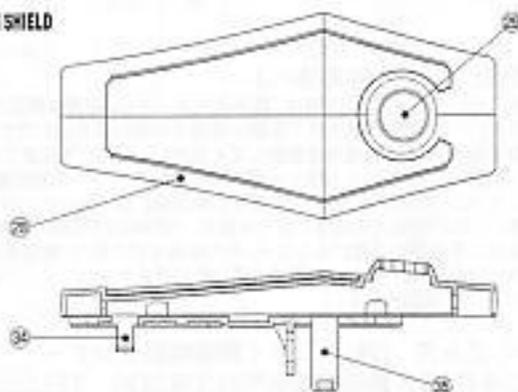
- | | | | | |
|--------------|----------------|--------------|---------------|------------|
| ①モノアイカメラ | ⑧スパイク | ⑱ラジエーションユニット | ㉒ニージョイントアーマー | ㉔ループホール |
| ②マルチブレードアンテナ | ⑨ダウト | ⑲5連装75mm機関砲 | ㉓サブセンサーアレイ | ㉕グリップ |
| ③パワーサブライバイブ | ⑩エルボージョイントアーマー | ⑲オプションラッチ | ㉔アークジョイントアーマー | ㉖ブレードゲート |
| ④ショルダーアーマー | ⑪マニピュレーター | ⑲メインスラスタ | ㉕メンテナンスハッチ | ㉗ヒートブレード |
| ⑤シールドラッチ | ⑫サイドスカートアーマー | ⑲サブスラスタ | ㉖ロッドシューター | ㉘スティッキーヘッド |
| ⑥フロントパネル | ⑬フロントスカートアーマー | ㉑センサーパネル | ㉗ヒート・ロッド | ㉙シールドホルダー |
| ⑦コクピットハッチ | ⑭リアスカートアーマー | ㉑ニーアーマー | ㉘シールド | ㉚ブレードホルダー |

注) MS-07系MSは、U.C.0079年3月18日の第三次降下作戦時には数機が実戦投入されましたが、本格的な量産は数カ月後のこととなります。この機体は、B型に分類される機体群のうち、最も初期に生産されたバージョンのひとつです。

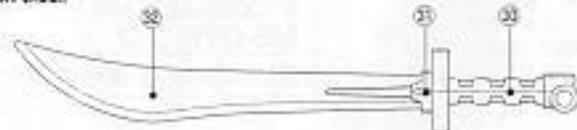
■ HEAT ROO



■ SHIELD



■ HEAT SABER



注意

必ずお読みください

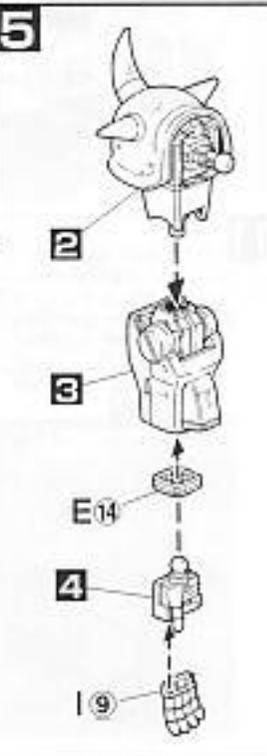
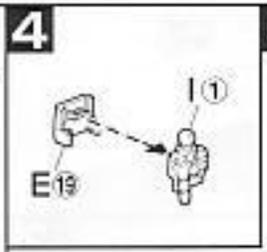
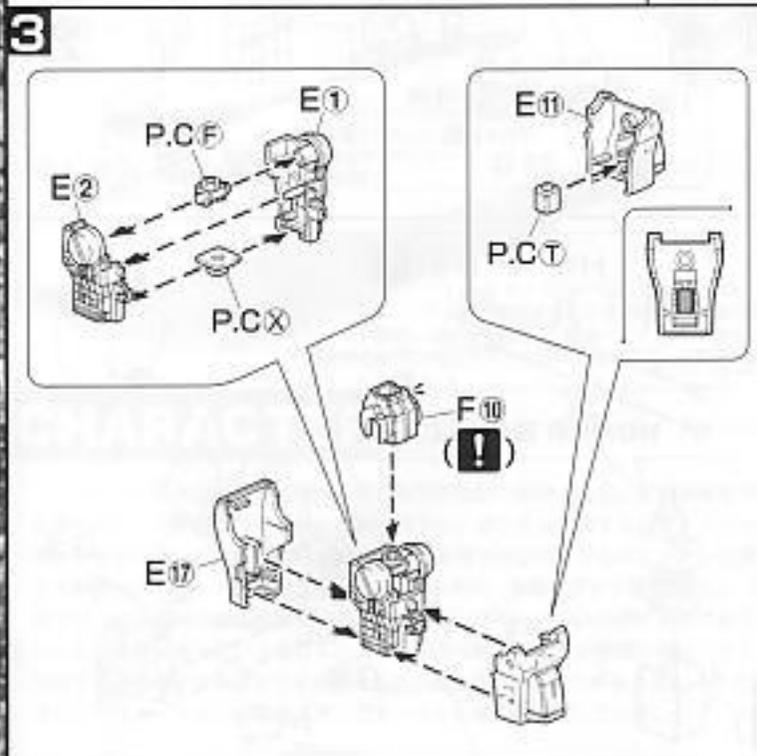
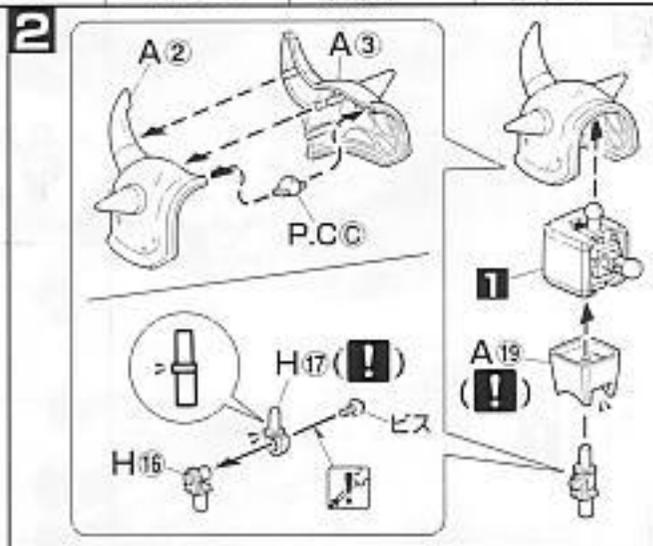
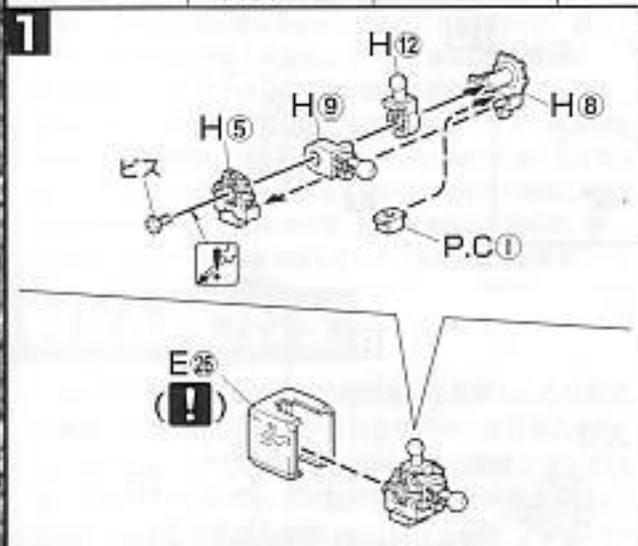
- この商品の対象年齢は15才以上です。鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。)
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息するおそれがあります。
- 小さなお子様がいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

※このキットの組み立てには+ (プラス) ドライバーを 사용합니다ので別にご用意ください。

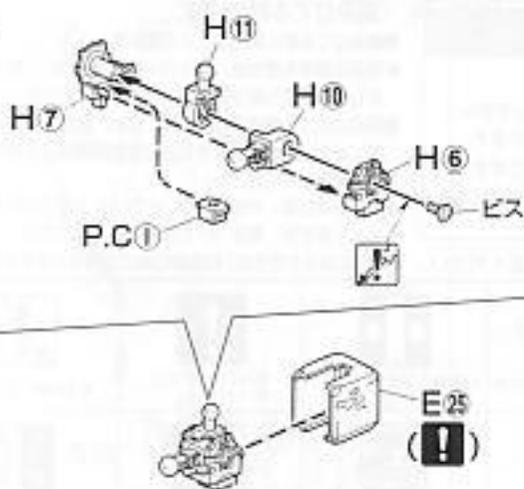
〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがったところがあるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗料にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

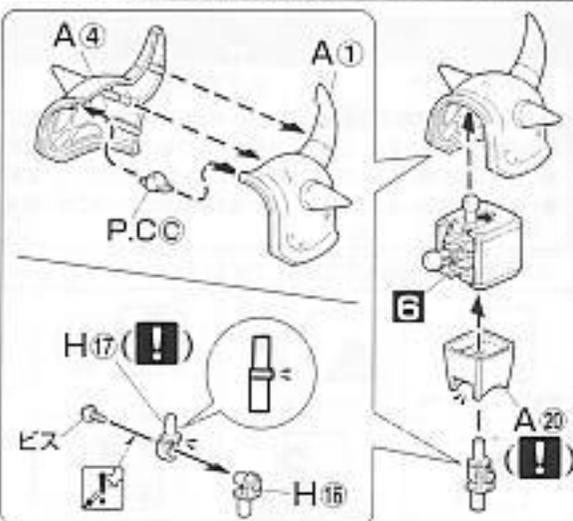
 接着をするところの標	 シールの番号	 プカールの番号	 反対側に貼り付けるパーツ	 両側に同じパーツを取り付ける	 同じ向きに注意して取り付ける	 ビスの締めすぎに注意
 切り取るところ	 部品を数個の個数があります	 先に組み立てます	 後に組み立てます	 数値に合わせて回転させます	 どちらかを選んで取り付ける	 反対側も同じように動かします



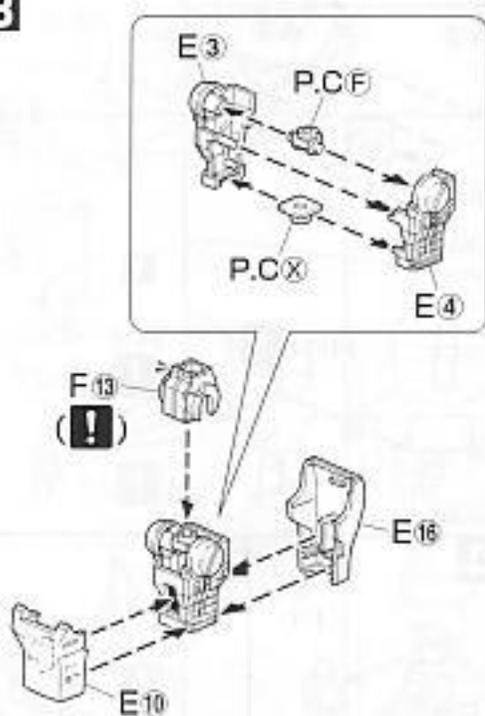
6



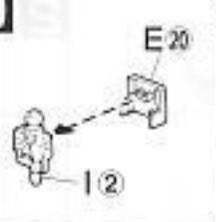
7



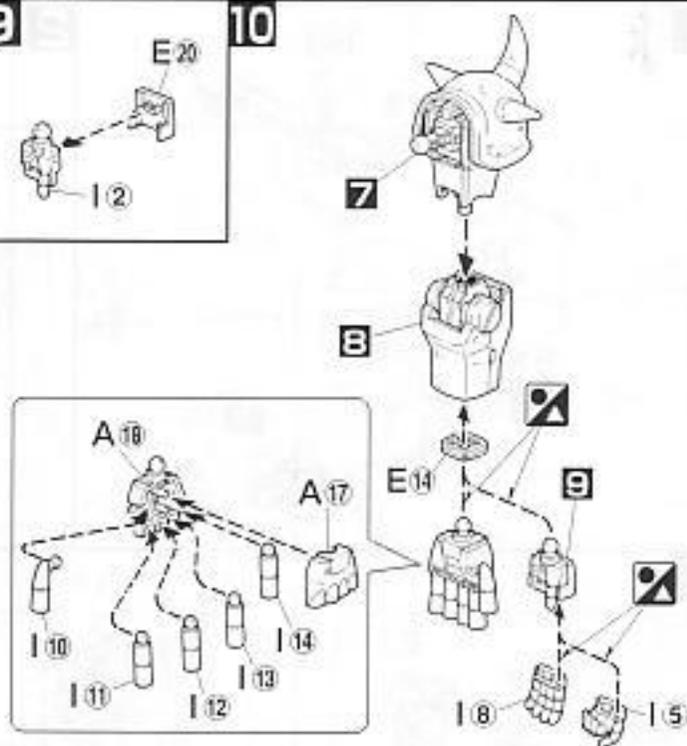
8



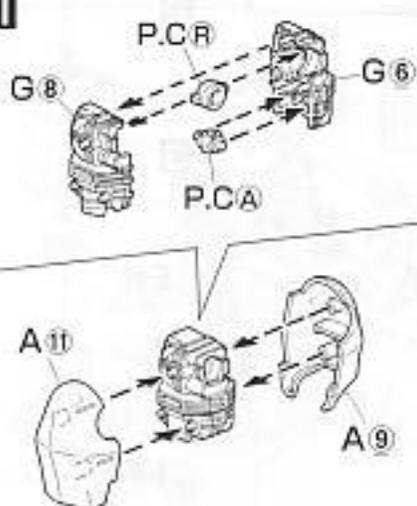
9



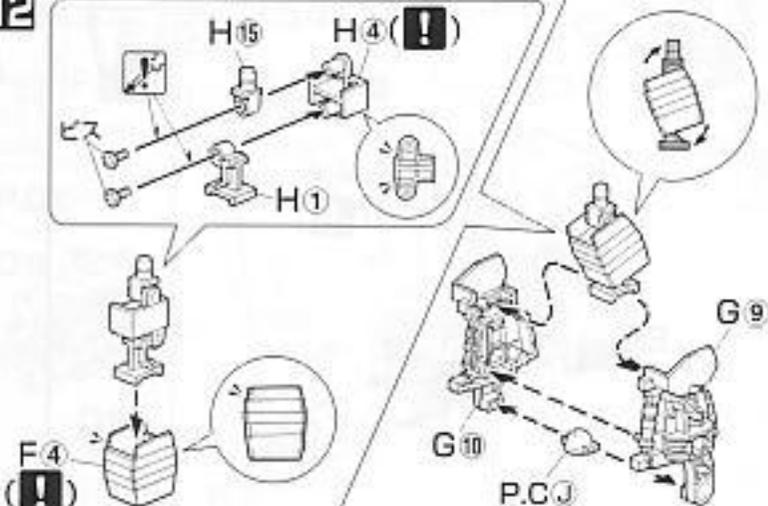
10



11

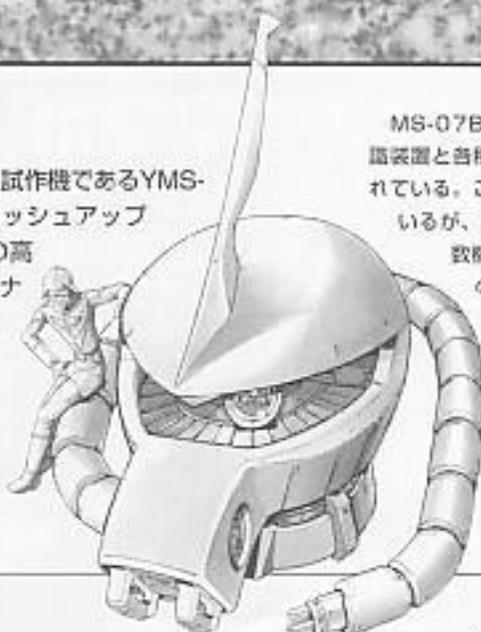
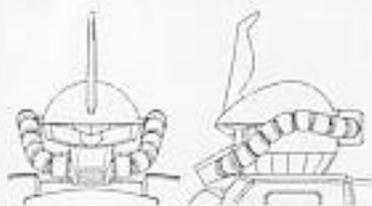


12



HEAD UNIT

MS-07Bのヘッドモジュールは、試作機であるYMS-07の各種機能や構造をさらにブラッシュアップし、生産性をも向上させた完成度の高いユニットである。ブレードアンテナは原則的に標準装備となっている。

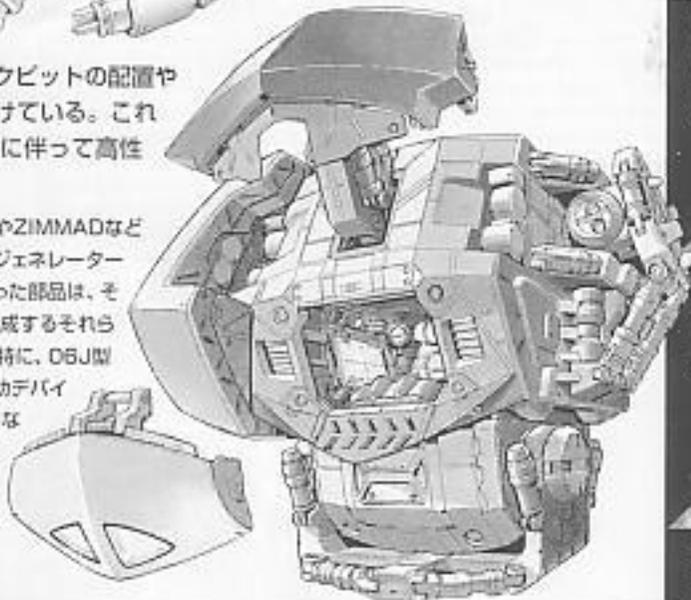


MS-07Bの頭部は、モノアイによる外部映像認識装置と各種の複合センサー及び通信機器で構成されている。この基本構造は後の機体にも踏襲されているが、実際にザク系のシルエットを残すのは、数機の例外を除いて一年戦争の期間中はこの機体が最後でもある。07系の機体の通信機能が強化されているのは、ドタイプ爆撃機との連携と“飛行試験型”のテストヘッドとしての運用などがかなり初期から想定されていたことによる。無論、いわゆる“エース”用の機体と目されていたことも要因のひとつと言われている。

BODY UNIT

MS-07系の機体は、いわゆる06系の機体と比べ、コクピットの配置や冷却装置のハウジングなど、構造的にかなりの変更を受けている。これは、各部の部品や部材、デバイスなどが、“ザク”の量産に伴って高性能化、小型化したことが大きな要因である。

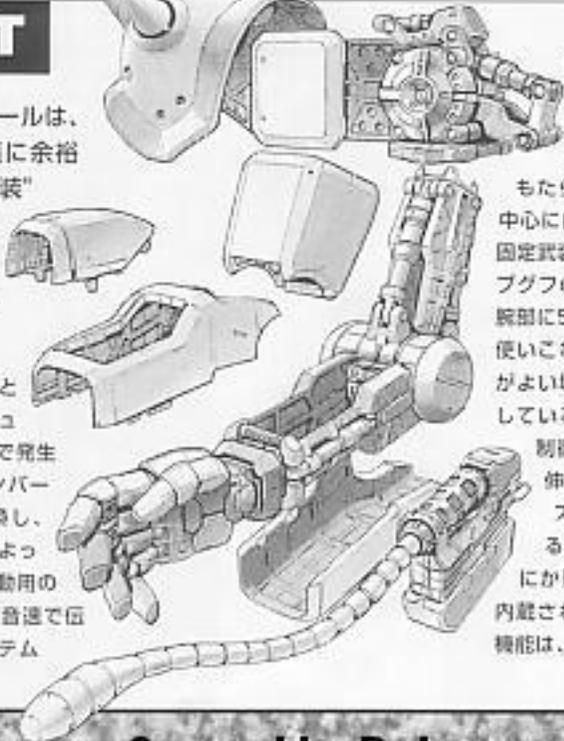
07型は、MEY公社とZEONIC社、及びZAS社のみならず、MIPやZIMMADなどがMS開発に本格的に参画し始めた時期の機体であった。それによるジェネレーターやアクチュエーター、装甲材や構造材、各種エンジンやモーターといった部品は、それぞれの企業が切磋琢磨を繰り返して、競い合っていたため、軽体を構成するそれらの部材の品質向上と小型化、高性能化には目覚ましいものがあった。特に、06J型では深刻な問題であった機体冷却技術は格段の進歩を遂げており、補助デバイスをエネルギーサプライのターミナルに分散配置することで、圧倒的な運動性の向上に成功している。並行して機体の軽量化と装甲の強化が達成され、一説には、コクピット周辺が損壊しても、駆動系や操縦系統に致命的なダメージを受けることがなかったという事例も報告されている。



ARM UNIT

MS-07Bの腕部モジュールは、軽量化によって内部容積に余裕が生まれたため、“固定武装”を装備している。これは、ノンオプションでの戦闘力を大幅に向上させるための処置であった。

“流体内部バルスシステム”と呼ばれる公国製MSのアクチュエーターは、ジェネレーターで発生するエネルギーを特殊なコンバーターでバルス状の圧力に変換し、それを数千本の極細微細管によって流体パイプに導き、関節駆動用のロータリーシリンダーに極超音速で伝達するという小型軽量のシステム



である。公国軍のMSの高性能化は、このシステムの進化と足並みをそろえているとも言える。この部材のトルク対容積比の改善が、軽量化をはじめとする機体向上をもたらしているのである。それにより、四肢を中心に内部容積に余裕が生まれたため、試験的に固定武装の内装を標準装備としたのである。Bタイプグフの仕様は、右腕部にヒート・ロッドを、左腕部に5連装75mm機関砲を装備したものが多く、使いこなせば手持ちのオプションより使い勝手が良い場合もあったという。ロッドの伸縮を実現している充填材は、位相を変えることで分子量を制御する高分子重合体で、ロッド全体として伸縮自在の構造を持っている。ロッド自体のストロークや容積全てが腕部に収納されているわけではない。機関砲は、下腕部から指先にかけてマガジン、薬室、バレルなどの機構が内蔵されているため、マニピュレーターとしての機能は、ほとんどない。

Mechanist Illustration: BEE CRAFT



THE CLASH OF SWORD

U.C.0079年10月8日、ザビ軍の末裔であり地球方面軍司令のガルマ・ザビを倒したW・B（ホワイトベース）部隊の前に、見慣れたMSが立ち上がった。「ザクとは違うのだよ！ザクとは！」、ガルマの叫びを聞いた「青い巨獣」ことランバ・ラルが、連邦軍の「木馬」と「白い獣」を討つべく、地上に降り立ったのだ！「こ、こいつ……、違うぞ！」驚いて倒れていたはずの阿姆ロ・レイは、新たな敵の出現で、恐怖だけではなく戦慄を感じていた。その後、ラルとの戦いは数度に及び、中立地帯のソドンに差しかけた時、ラル隊はついに木馬へ砲撃をかける。W・Bを脱走していた阿姆ロは、存続の危機にガンダムで駆けつける。阿姆ロの射撃を統一軍でかわすグフに対し、阿姆ロはアイフルを誘って接近戦を挑む。「あっ、思い切りのいいパイロットだな。手強い！」ビーム・サーベルで切りかかるガンダム。グフもまた、ヒートサーベルを抜き改つ！



CALIFORNIA BASE

U.C.0079年3月13日、連邦軍のカリフォルニアベースをほぼ無傷で制した公団軍は、複数の軍事施設を使ってMS-06Jの生産を開始した。これを皮切りに、カリフォルニアベースは地球における公団軍の一大拠点をよび生産拠点として機能するようになる。それでもMSの生産を行うためには、施設の大規模な改修を行わなければならず、本格的な生産設備として稼働させるためにはおよそ数年を要したといわれている。しかし、実際に「地球の環境で」陸戦兵器を生産するメリットは大きかった。設計上の先行錯誤はそのまゝ結果となるからだ。ドライ爆撃機とMSのコンビネーションの有効性もこの基地において確認された。この基地の存在は、陸戦用MSのみならず、水中型MSや特殊仕様MS、飛行（ホバー）などを可能とするMSの基礎技術の確立に、計り知れない貢献をもたらすのである。



JABURO

U.C.0079年11月30日、公団軍はジャブロー降下作戦を發動する。ジャブローは連邦軍の秘司令本部所在地であり、天然の要害を利用した難攻不落の要害であり、軍産複モビルスーツや宇宙艦艇の開発生産の拠点でもあった。ここを落とすことができれば、公団軍の優勢は確固たるものとなる。ジャブロー降下作戦は、オデッサ作戦で疲れた劣勢を一気に挽回する北光団長の一手として強行された。この作戦では、カリフォルニアベースに残存する戦力のほとんどすべてが動員されたため、最新鋭の水陸両用機から、すでに兵站任務などに配備転送されていた機体なども多数投入され、襲撃以来最大規模の地上戦が展開された。しかし、連邦軍による量産型MSの投入を初めとする協定比率によって作戦は失敗。さらに、この作戦のためにカリフォルニアベースの戦力をほとんど投入してしまっただけで、後にベースそのものを奪回されてしまうという結果を招いた。

SABER ACTION HEAT ROD



CLAWLE HAMON



PAINTING

- よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご確認ください。
- ▼塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- このキットをよりリアルに塗装したい方は、グンゼ産業より発売のガンダムカラー（HG「グフ」用、その他カラーセット）をお使いください。

	胴体などの塗装色。 ブルー(80%) + ミッドナイトブルー(20%) ※またはガンダムカラー ブルー7
	腕、足などの塗装色。 スライブルー(4%) + インディブルー(32%) + ブルー(20%) + イーフ(10%) ※またはガンダムカラー ブルー8
	ヒザ、足底、関節などの塗装色。 ネイビーブルー(60%) + ブラック(40%) ※またはガンダムカラー グレー6
	バックパック、ヒート・ロッドなどの塗装色。 ニュートラルグレー(80%) + ホワイト(40%) ※またはガンダムカラー グレー3
	コクピットの塗装色。 オレンジイエロー(60%) + イエロー(40%)
	モノアイの塗装色。 蛍光ピンク(100%)



FRONT VIEW



REAR VIEW



▲開閉式のコクピットハッチをはじめ、シートやパイロットを再現。



▲左手のマシンガンハンドは、可動式。胸部、脚部の装甲は、脱着可能。フレーム、シリンダー等の内部メカニクを精密に表現。

Parts name of
MS-07B GOUF

Parts List

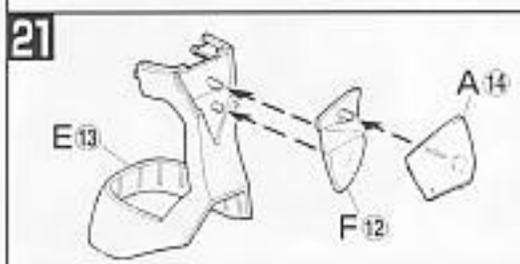
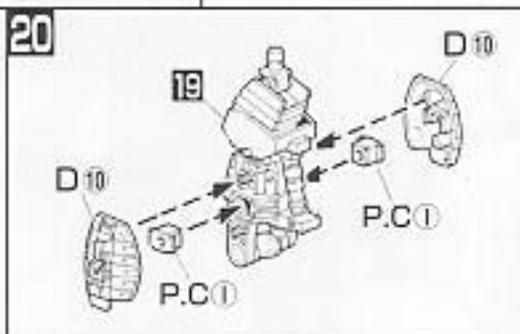
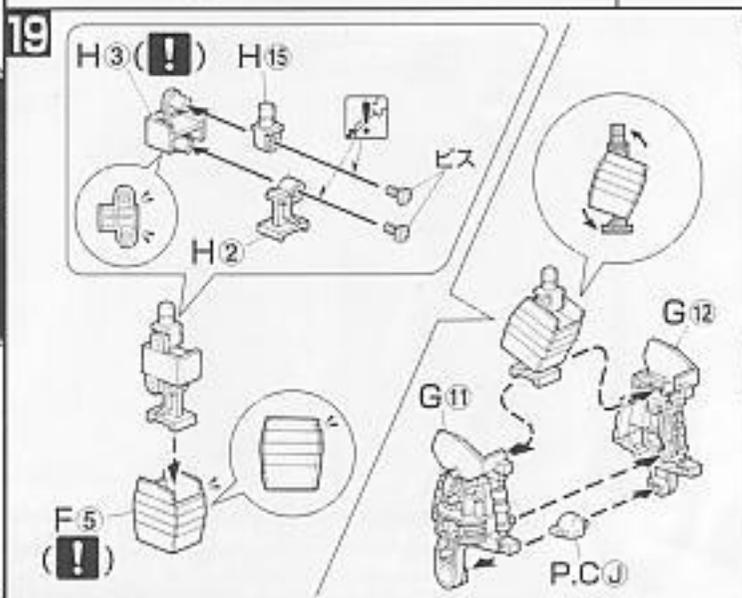
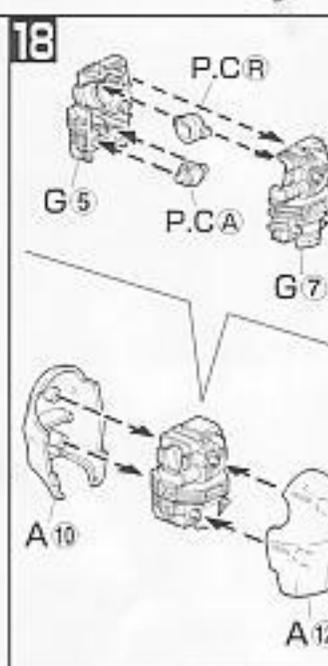
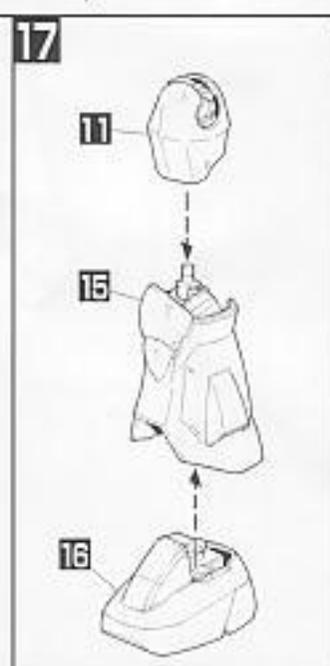
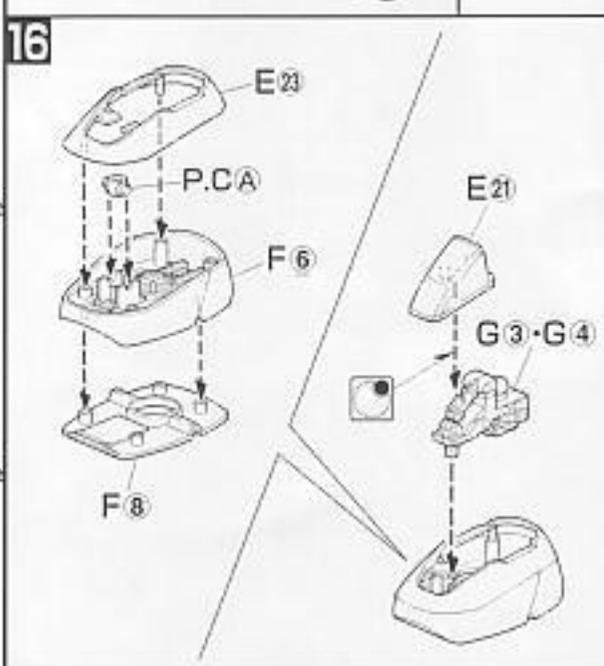
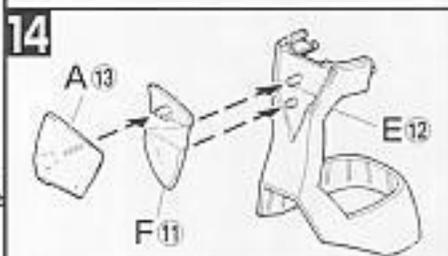
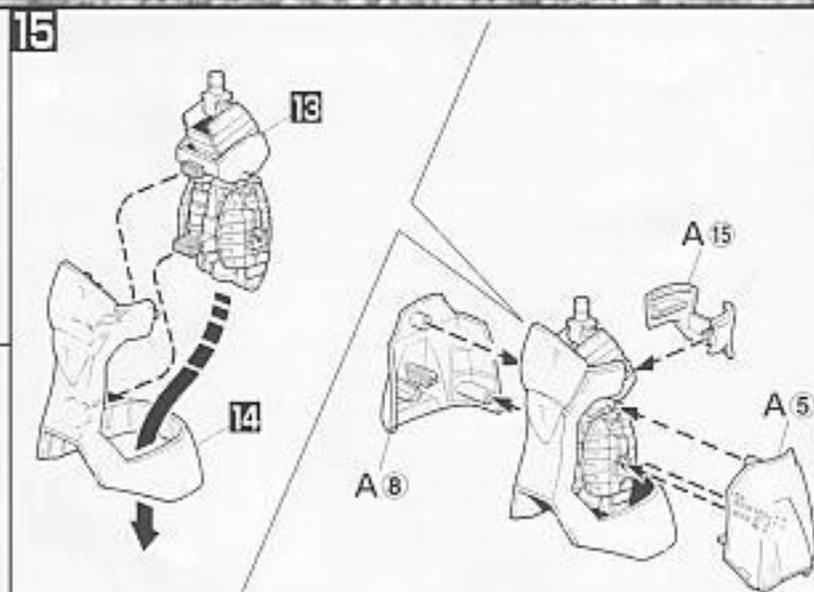
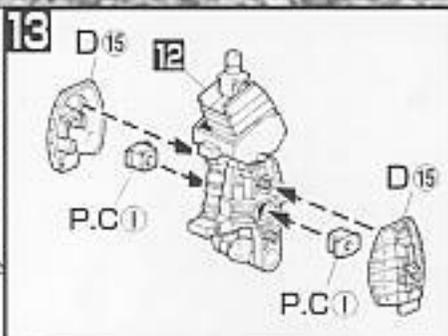
Head

Body

Arm Unit

Leg &
Weapons

Final Assemble



10

Scanned by Dalong.net

LEG UNIT

Bタイプグフは軽量化によって内部容積に余裕が生まれたため、脚部には補助推進システムが装備され、機動時の初期加速向上や短距離のジャンプが可能であり、より地上戦に適応した機体となっている。

“グフ”の脚部は、06J型の運用で浮き彫りにされた種々の問題を解決するとともに、重力下への適応をもっともストレートな形で体现した部位でもある。MSの脚部は、もっともデリケートなユニットであると同時に、もっとも酷使される部位でもあった。そのため損耗率が異常に高く、頻繁なメンテナンスが必要であった。特に06系の機体では、市街地や渚木などが繁茂する領域などにおいて、脚部に露出した動力パイプが思わぬウィークポイントとなることも多かったといわれている。07系の機体は、基本的には局地戦用のMSであり、頻繁な仕様変更は当初から想定されていなかった。加えて、内部構造の改善と軽量化によって、脚部の動力経路は再び内蔵されることとなり、また、関節部にはそれらを保護するためのカバーも設けられた。さらに、走破性をより向上させるため、跳躍補助用のサブラスターなども内蔵されることになった。これにより、湿地帯や岩場などにおける走破性も格段に向上したのである。移動速度を除けば、グフが完成した段階で、歩行脚としてのMSの脚部は完成していたとも言えるのである。



Parts name of
MS-07B GOUF

Parts List

Head

Body

Arm Unit

Leg &
Weapons

Final Assemble

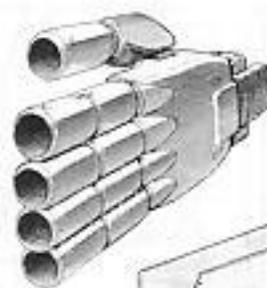
WEAPONS

MS-07Bは、初の本格的な陸戦用MSである。それまでに蓄積された武装や戦術のノウハウも可能な限り導入され、ノンオプションでの戦闘能力は当時屈指の機体となっている。また、ヒート・ロッドや機関砲を腕部に内蔵するなど、実践的な装備の実戦投入を積極的に行った機体でもある。



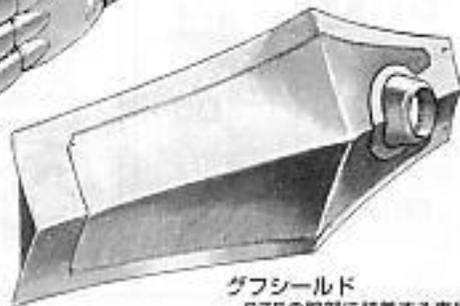
ヒート・ロッド

07Bの固定武装として採用されたいわゆる電磁ムチ。特殊な圧電アクチュエーターを内蔵する特殊構造のデンドリマーと、それを覆う導電率の高い重合体でできている。



5連装75mm機関砲

07Bの固定武装として採用された機関砲。マニピュレーターとしてはほとんど機能せず、形状も規格外のため、シールドなどは専用の物以外使用できない。



グフシールド

07Bの腕部に装着する専用シールド。遠距離からの狙撃対策というよりは、近接戦闘時の実体弾や打撃、斬撃を減免するための機能を重視した構造となっている。



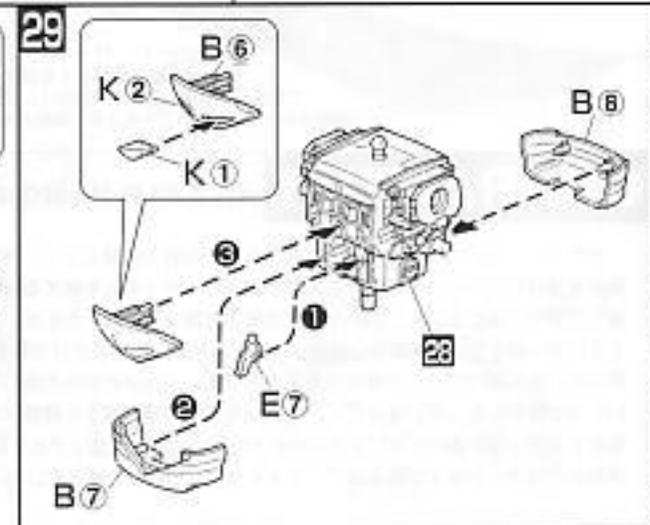
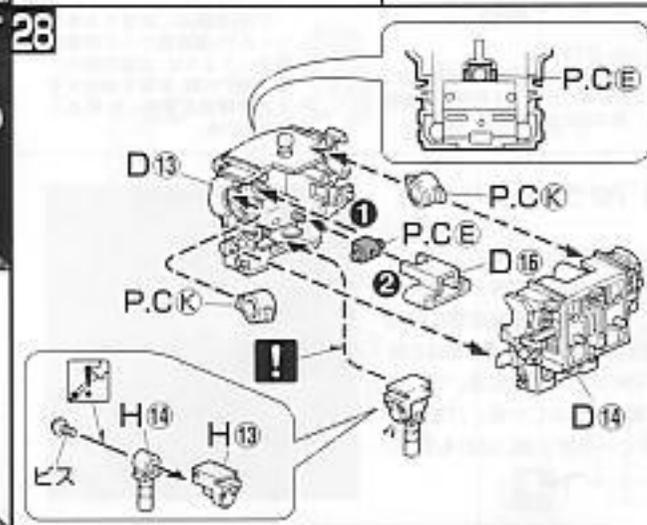
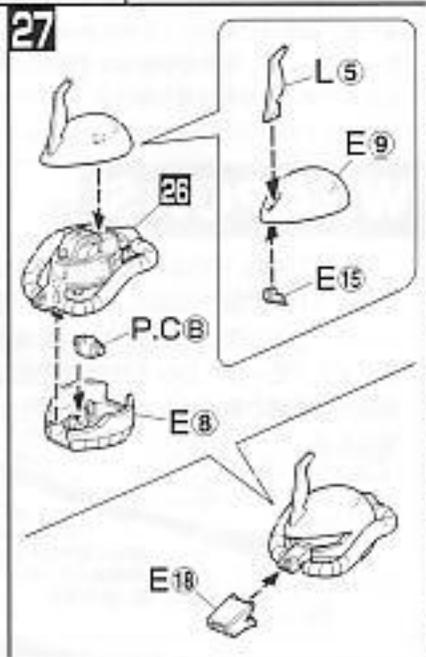
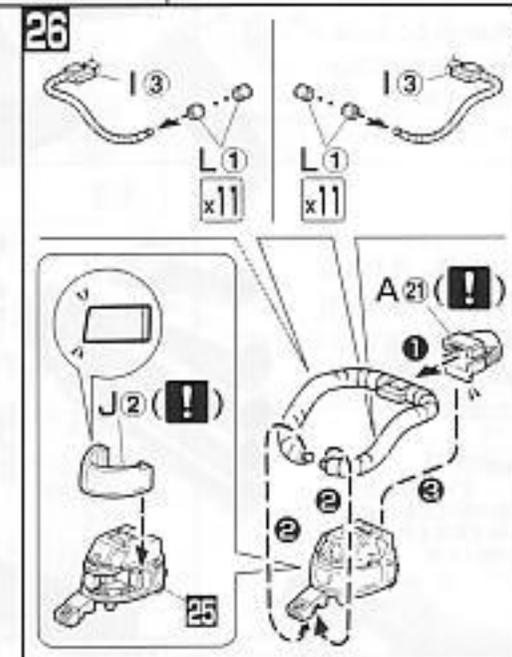
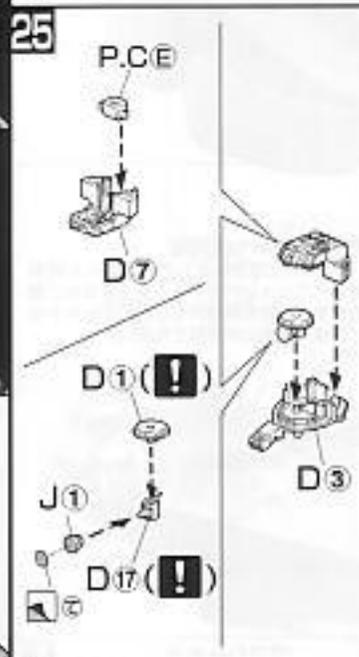
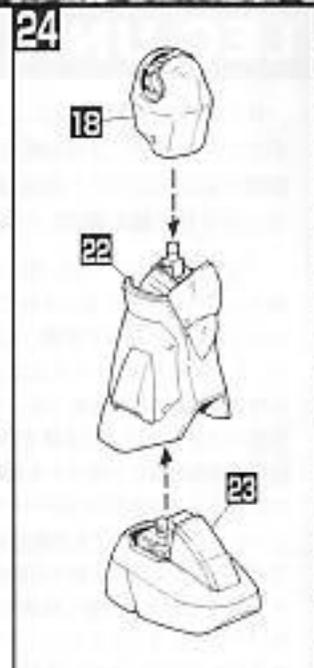
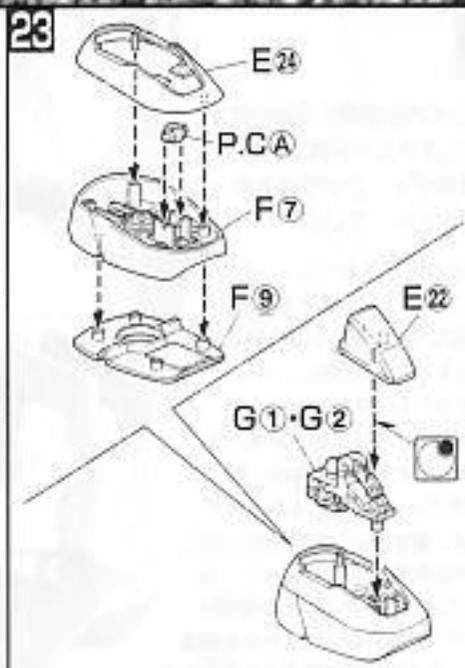
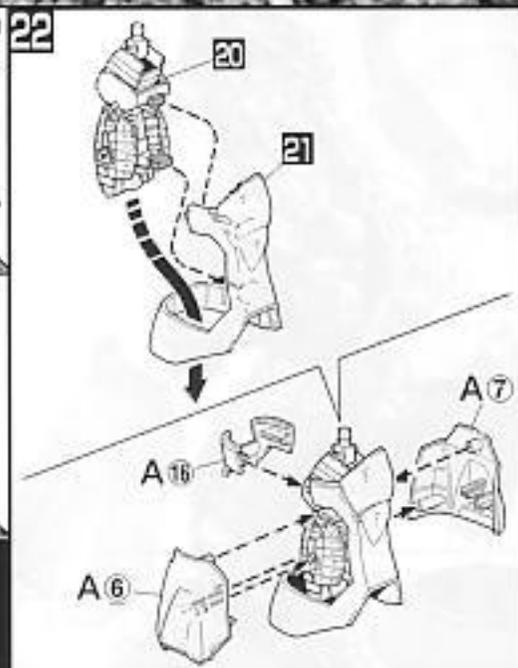
ヒート・サーベル Type-BIV

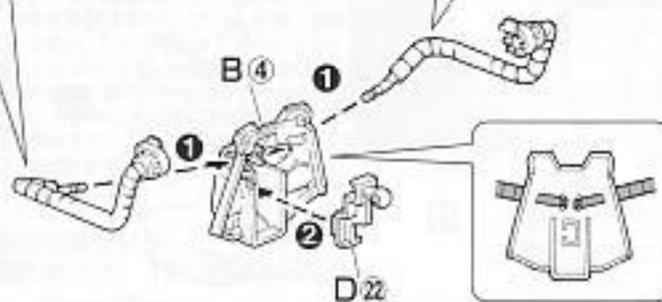
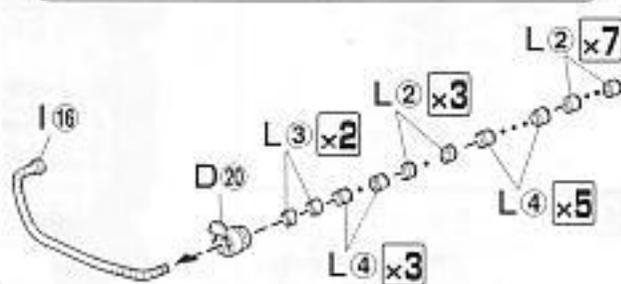
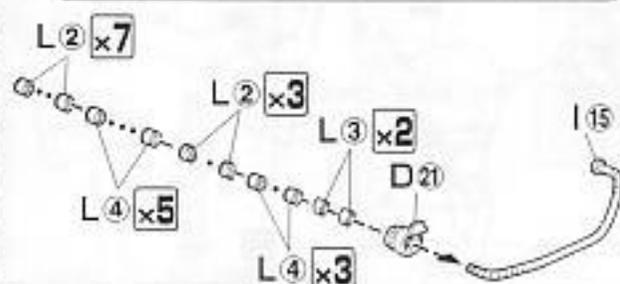
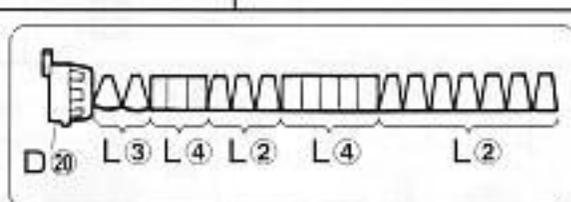
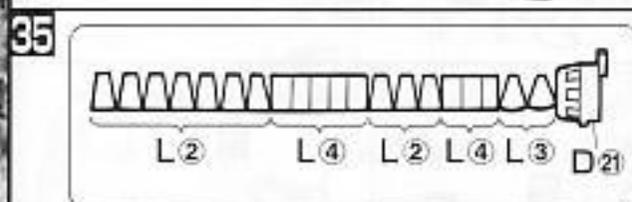
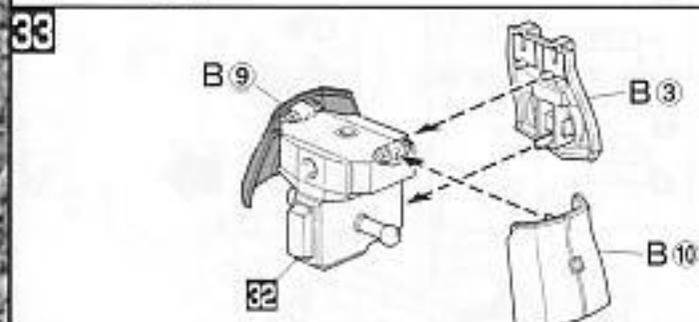
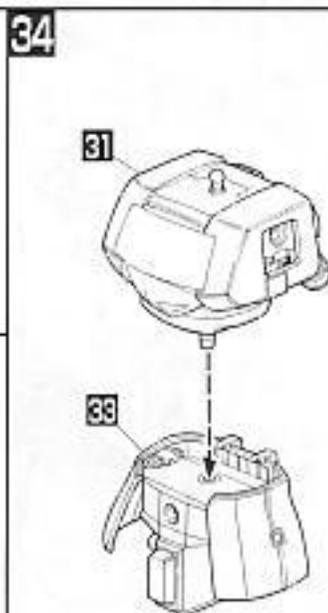
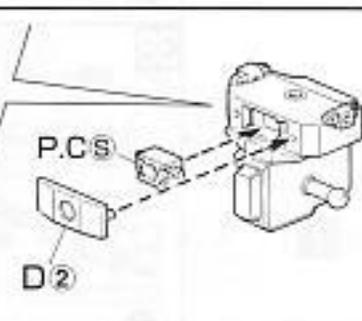
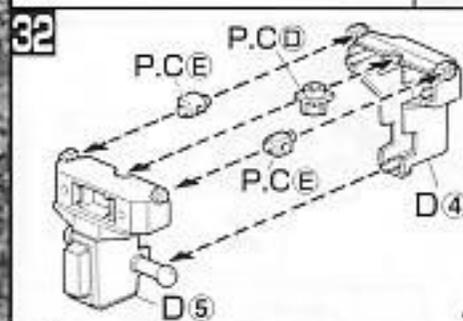
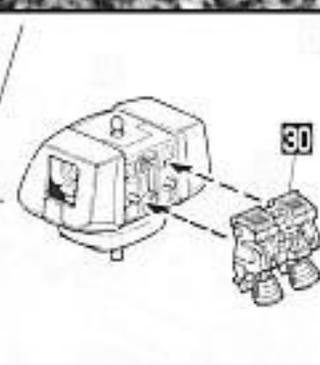
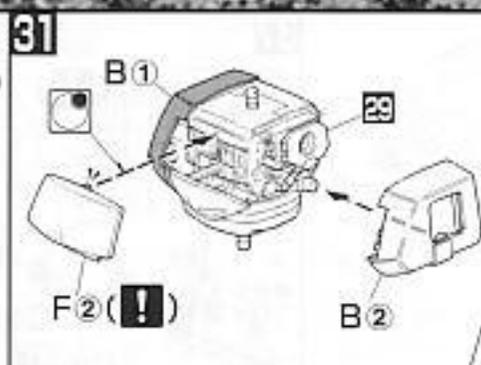
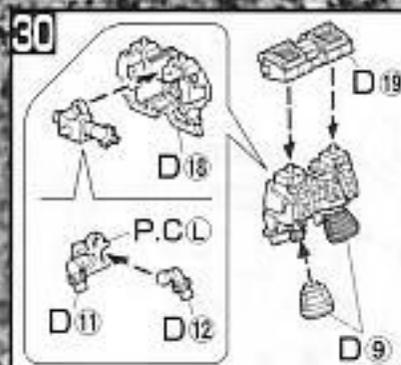
グリップに充填された形状記憶合金の高分子化合物によって同時に発熱体を形成し、灼熱化した巨大な剣を形成する斬撃用の武器。発熱体の主成分はセラミック系の微粒子で、基本的には使い捨ての武装。

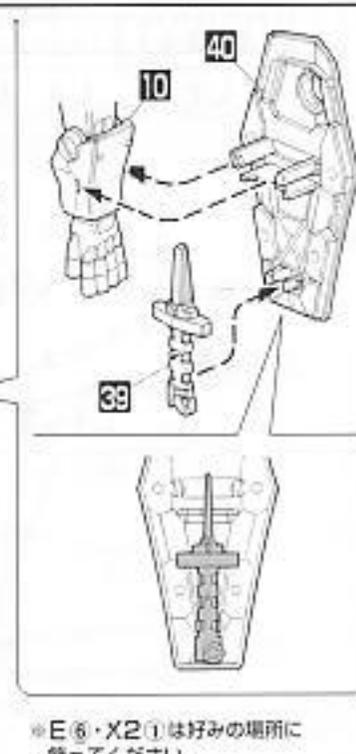
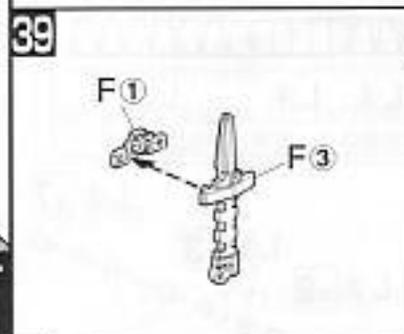
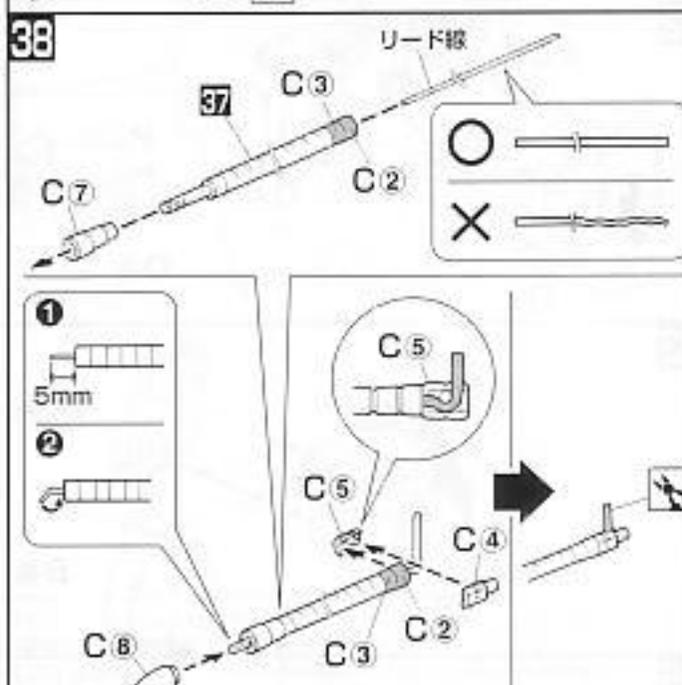
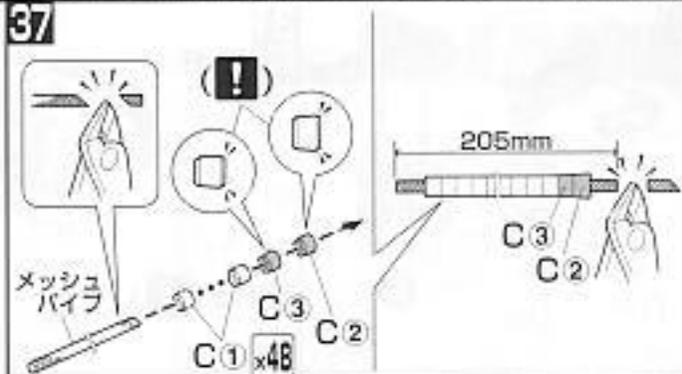
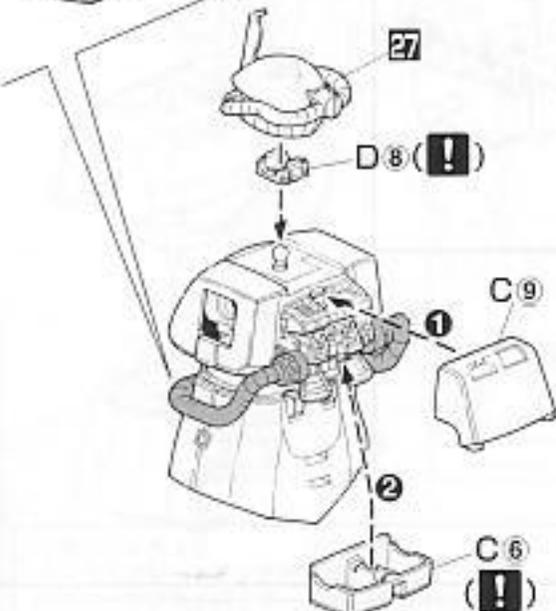
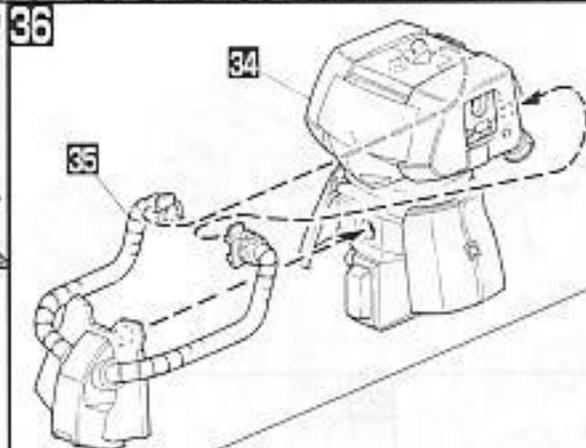
CHARACTER CLAWLE HAMON 「クラウレ・ハモン」

クラウレ・ハモンは、ザビ家の末弟ガルマの仇討ち部隊として、宇宙攻撃軍司令ドズル・ザビの勅命を受けたランバ・ラルと共に地球に降下し、ガンダムを擁するホワイトベース部隊と機密にも遡って激戦を繰り広げた。“青い巨星”の異名を持つランバ・ラルは、ジオン公国宇宙攻撃軍に所属する歴戦の勇士で、一年戦争の勃発に前後する期間、各地でゲリラ戦を展開し、その戦歴はMSの開発以前、共和国時代の国防隊まで遡るとされる。ハモンとラルの馴れ初めは詳らかではないが、互いに深く理解しあっているらしく、ハモンもラル同様、部下の信頼が篤い。ラル亡き後、ハモンは残存するラル隊を率いてホワイトベースとの戦いに挑み、ガンダムをあと一歩まで追い込むものの、決死のリュウ・ホセイが駆るコア・ファイターと相打ちとなっている。



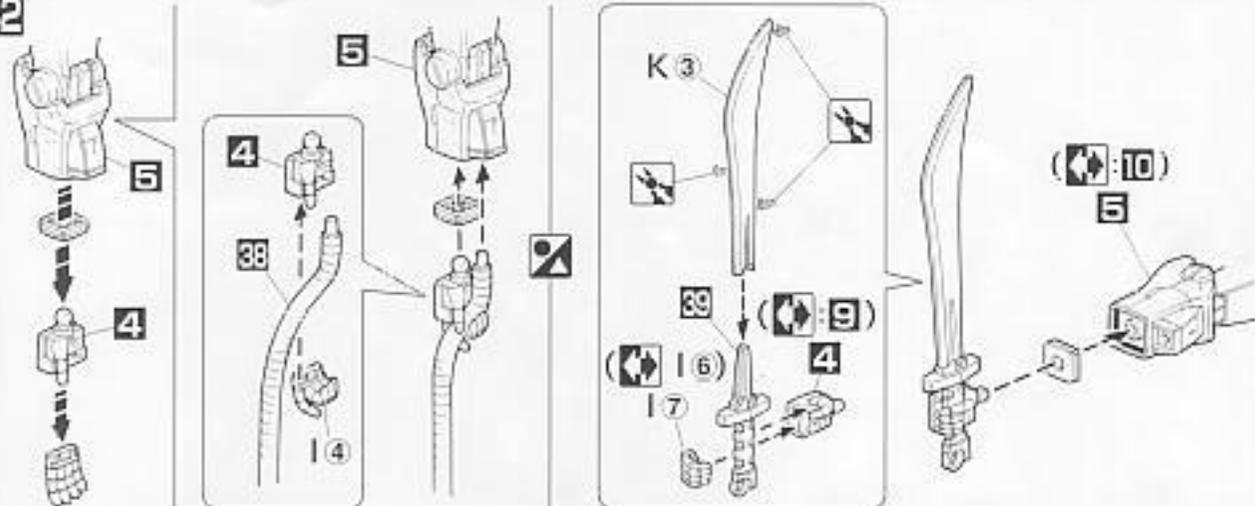






※E6・X2①は好みの場所に飾ってください。

42



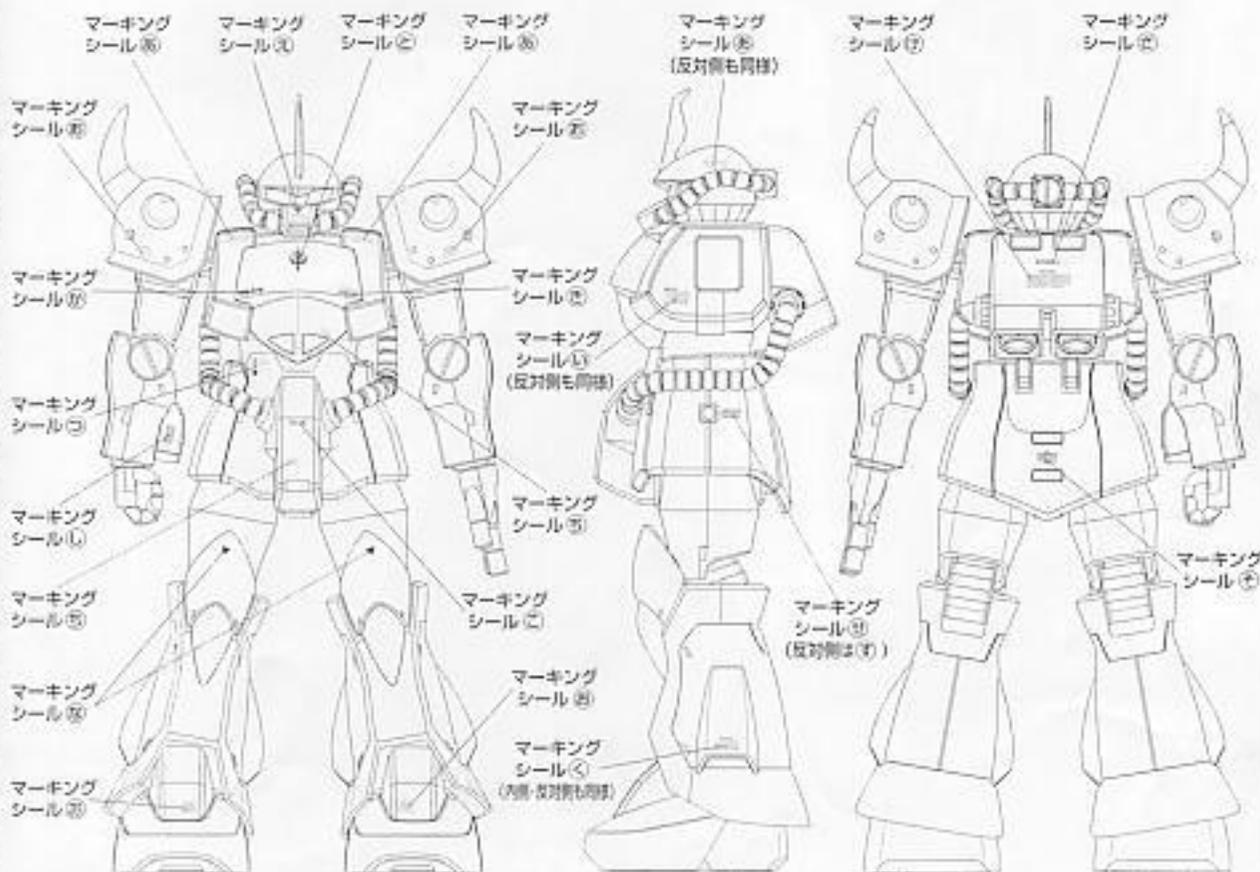
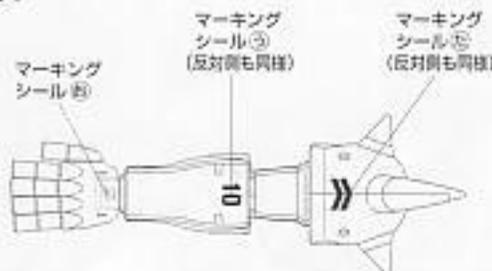
Seal

(シール)

下の図を見て、ガンダムデカールやシールのはる位置を確認してください。

ガンダムデカールのほりかた。

1. 転写するマークを大きめに切り取ります。
2. 転写する場所に軽く押さえ、
ボールペン等の先の丸い物で
上から軽くこすりつけます。
3. シート部分を静かにはがし、転写していない
部分があれば、もう一度転写していない部分をこすり取ります。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。



協力:ホビージャパン



ジオン公国軍陸戦用
量産型モビルスーツ
MS-07B「グフ」
1/100 スケール
マスターグレードモデル

MS-07B GOUF
PRINCIPALITY OF ZEON MASS PRODUCTIVE LAND BATTLE TYPE MOBILE SUIT

Scanned by Dalong.net